

## 全国高等学校国語教育研究連合会 第47回研究大会 報告

日時 2014年11月6日(木)7日(金)  
場所 千葉県立幕張総合高等学校(講話、講演)、千葉県立袖ヶ浦高等学校(分科会)  
参加者 坪内有美子

### 1 文部科学省講話 大滝一登氏 (初等中等教育局教育課程課教科調査官)

【演題】「高等学校国語の授業改善—新しい時代に向けた授業づくり—」

【講演要旨】

**グローバル化、情報通信技術の高度化などの社会の変化に対応し、言語活動を充実させた授業展開をしていかなければならない。**そのためには、まずカリキュラムを明確にし、国語科と各教科等との共通理解を進め、公開授業や連携授業で目標の実現を目指さなければならない。その際、有効な言語活動になっているか、思考・判断・表現の学習活動として機能しているか、ワンパターンではなく様々な言語活動が取り入れられているか、などに注意する必要がある。

### 2 記念講演 齋藤孝氏 (明治大学教授)

【演題】「日本語力とコミュニケーション力」

【講演要旨】

国語は運動。トレーニングである。

読んだ事柄、聞いた事柄を1分でまとめて自分の言葉で表現したり、テーマが同じ評論を繰り返し読んでその分野の博士になったり、時間を意識しながら何度も繰り返すトレーニングで国語力が成長していく。

実際に講演会場で全員が起立しペアを組んで1分間スピーチを行ったり、軽くジャンプしてハイタッチをしたり、動きながらの「国語」を体験した。**元気がないと何もできない、という先生の言葉が印象的であった。**

### 3 分科会(第6会場)千葉県立袖ヶ浦高等学校

■創立：昭和51年創立。今年で39年目。

■在籍生徒数：普通科774名、情報コミュニケーション科121名

■設備：PC教室2教室、**校内でWi-Fiが利用可能。**

公立高校として全国初の一人一台のiPad環境を導入。

【研究授業】

■1年3組(普通科)単元：「伊勢物語」『東下り』

本文の現代語訳などは終えた後の段階。班に分かれ、**各班テーマを決めて研究し、その内容を発表する。**iPadで作成した資料や写真を用いたり、ノートに描いた絵をiPadで撮影しながらスクリーンに投影したりしながら発表を行う。質疑応答が活発で、**楽しく授業に参加している様子が印象的であった。**

■1年7組(情報コミュニケーション科)単元：「伊勢物語」『東下り』

本文の現代語訳などは終えた後の段階。班に分かれ、**各班テーマを決めて研究し、その内容を発表する。**このクラスは**全班iPadのソフトを使って発表資料をまとめ、電子黒板で投影しながら発表**を行っていた。**生徒は評価表に記入しながら発表を聞き、規律の守られた雰囲気**が印象的であった。

■ 2年2組（普通科）単元：「大鏡」『道長と伊周一弓争ひ』

本文の現代語訳、読解を終えた段階。登場人物の心情把握の授業。**班に分かれ、ホワイトボードに絵を描き、その表情を説明する発表**を行う。最前列の生徒が iPad で撮影しながら、黒板のスクリーンにその絵を投影する。**目標が明確に設定されており、オリジナリティのある発表**がとても楽しかった。

■ 2年7組（情報コミュニケーション科）単元：「大鏡」『道長と伊周一弓争ひ』

作品の時代背景や現代語訳は終えた段階。**本文にあるシーンを前もって動画撮影してきて、その動画をお互いに見合い、こだわったポイントや登場人物の心情の推測などを発表**する。実際に弓道場に行ってセリフも考えて撮影しており、力が入った発表だった。当日の言語活動がやや少ないと感じた。

【研究発表】

■ 千葉県立袖ヶ浦高等学校：木村順子教諭、鈴木美穂教諭

「表現力を高め、読みを深めるための伝え合う活動—ICTを活用した授業実践—」

- ・漢詩のイメージをマルチメディアで表現する。
- ・自作の韻文をマルチメディアで表現する。
- ・古典「枕草子」：清少納言に倣って、自分の好きな木の花を紹介する。
- ・現代文「山月記」：アプリケーションやSNSを通して自由に自分の考えを表現する。（PingPong、Ednity など）

教師と生徒という関係から、**生徒同士も含めた教師と生徒間の関係へと変化させるためにICTを活用した発表**だった。

■ 千葉県立千葉東高等学校：肥田博之教諭

「漢文を読む意欲を高める授業展開の研究～情報機器の活用と班学習を通して～」

- ・漢文を教えたいが、生徒の苦手意識が強く、興味を持たなくなる現状がある。
- ・その状況を打開するため、読めたことを実感させること、漢文学習の意義を理解させることに重点を置き研究を行った。

**方法①** プレゼン用ソフト（パワーポイント）を活用。

本文を板書する時間を短縮できる、アニメーションで語順などを視覚的に説明できる、寝ている生徒の横に立って励ましながら授業ができるなどのメリットがある。

**方法②** 班学習による話し合いを導入。

少人数の班であれば生徒全員が発言する機会を持てる、発言することへの抵抗感を軽減できる、生徒相互の気づきで読解を深められるなどのメリットがある。

肥田教諭は本年度、**すべての授業でICTを用いて実践中**で、アンケートの結果等から、多くの生徒に漢文学習の意義を認識させることができたそうである。今後の課題は**自ら進んで漢文を読みたいという意識まで導くこと、楽しさを実感させられるような授業を実践すること**とのことであった。